

道路アセットマネジメントプラットフォーム
第7回国内支援委員会

第6回委員会で各委員から頂いた
ご意見に対する対応案について

第6回委員会で各委員から頂いたご意見一覧

① 課題別研修について

- 道路政策や予算に関する講義についても積極的に課題別研修の中で取り入れて頂きたい。また、デジタル化やDXに関する内容についても研修に含めていくことを検討頂きたい。

② RAMP長期研修員事業について

- 多くの留学生が来ている中、一部の代表的な学生だけで良いので、どのような優秀な技術者が留学し、各国でどの立場にいるか等、個別に顔が見えるレビューを実施することを検討頂きたい。

③ JICA専門家の巻き込みについて

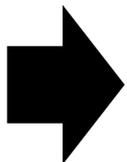
- RAMP 発足から5年という区切りの中で、道路アセットマネジメント分野のJICA 専門家に対して、RAMPとしてどのような取組みを実施すれば良いか、ウェブやメールでご意見頂いてはどうか。

④ 道路AM成熟度評価・特殊橋梁調査について

- 評価指標のデータを一度オープンにし、多くの人に知ってもらえると良い。セミナーの開催や、コンサルタントから意見をもらう場を設定してはどうか。
- アセットマネジメント評価については、各国ごとに個別性があるため、単に個別性を共有するだけではなく、何が個別もしくは共通の課題・知識であるのか、まとめると次の展開が見えてくる。

⑤ データフォーマットの統一化について

- 橋梁点検はタブレット端末利用が進んでいるが、日本ではデータフォーマットが特に無く、各社が個別に作成している。日本としてのフォーマットをある程度統一してはどうか。



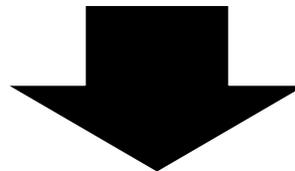
次ページ以降で、各ご意見に対するRAMPとしての対応案をご報告

1. 課題別研修について

委員からのご指摘事項(第6回委員会)

■課題別研修について

- 道路政策や予算に関する講義についても積極的に課題別研修の中で取り入れて頂きたい。また、デジタル化やDXに関する内容についても研修に含めていくことを検討頂きたい。



RAMPとしての今後の対応案

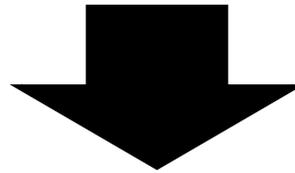
- 2024年度から、3つの課題別研修の中で、道路政策や予算、デジタル化やDXに関する内容を新たに5講義追加する予定。
(例:道路整備・維持管理に関する財政制度、財源・民間資金ノウハウの活用、デジタル道路地図、等)
- 2025年以降は、研修員や講師からのフィードバックも踏まえ、拡充可能性についても検討していく。

2. RAMP長期研修員事業について

委員からのご指摘事項(第6回委員会)

■RAMP長期研修員事業について

- 多くの留学生が来ている中、一部の代表的な学生だけで良いので、どのような優秀な技術者が留学し、各国でどの立場にいるか等、個別に顔が見えるレビューを実施することを検討頂きたい。



RAMPとしての今後の対応案

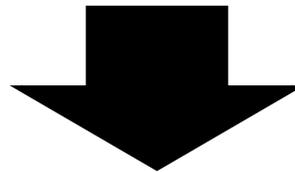
- 来日研修員に対して、所属機関や役職、研究活動状況などを確認する調査を実施中。
- 素晴らしい成果を上げている研修生については、顔が見えるレビューとして、JICAホームページや開発協力白書に掲載し紹介している。
- これまでに3事例紹介しているが、より多くの活躍事例を発掘し、受入大学や他研修生に対して広報していく。また、より効果的な広報についても検討中。

3. JICA専門家の巻き込みについて

委員からのご指摘事項(第6回委員会)

■ JICA専門家の巻き込みについて

- RAMP 発足から5年という区切りの中で、道路アセットマネジメント分野の JICA 専門家に対して、RAMPとしてどのような取組みを実施すれば良いか、ウェブやメールでご意見頂いてはどうか。



RAMPとしての今後の対応案

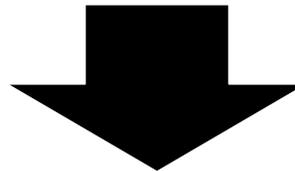
- 2023年11月現在、10カ国に長期専門家を派遣している。
- 一部専門家とは、定期的に意見交換を行っているが、より多くの専門家を巻き込み、JICA活動全般や今後のRAMP活動について議論を行っていく。例えば、派遣地域や出向元ごと(例: 高速道路会社ごと等)に特定のテーマを設けて意見交換を行うなど、工夫していきたい。
- MicrosoftのForms機能等を活用して、JICA専門家のみならず、コンサルタント関係者に対してもRAMP活動について意見を伺っていく。

4. 道路AM成熟度評価・特殊橋梁調査について

委員からのご指摘事項(第6回委員会)

■道路AM成熟度評価・特殊橋梁調査について

- 評価指標のデータを一度オープンにし、多くの人に知ってもらえると良い。セミナーの開催や、コンサルタントから意見をもらう場を設定してはどうか。
- アセットマネジメント評価については、各国ごとに個別性があるため、単に個別性を共有するだけでなく、何が個別もしくは共通の課題・知識であるのか、まとめると次の展開が見えてくる。



4. 道路AM成熟度評価・特殊橋梁調査について

RAMPとしての今後の対応案

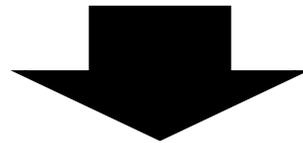
- 評価指標そのものや、過年度に実施した各国の調査結果については、契約業務の報告書という形で公表してきているが、個々の調査結果の公表までとなり、国間で比較し分析することは出来ていない。
- 調査結果等を本邦エンジニア向けの技術セミナーの中で発表していくとともに、2018年から現在まで実施した道路AM成熟度評価・特殊橋梁調査における個別／共通の課題が何であるのか分析していきたい。
- また、評価指標や調査手法を見直し、より簡便な手法で最低限の情報を取得・分析する調査も実施できないかRAMP内で検討中。

5. データフォーマットの統一化について

委員からのご指摘事項(第6回委員会)

■ データフォーマットの統一化について

- 橋梁点検はタブレット端末利用が進んでいるが、日本ではデータフォーマットが特に無く、各社が個別に作成している。日本としてのフォーマットをある程度統一してはどうか。



- 株式会社パスコ 青木様より、「技術協カプロジェクトにおける道路資産データベースの構築」と題して、ベトナムやエチオピア、インドネシアにおける道路資産データベース構築に係る活動について事例紹介いただく。(約25分)